

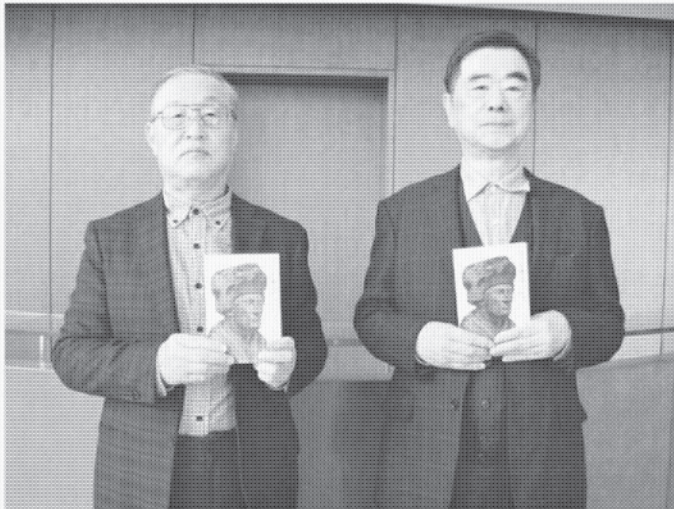
かつて佐野の龍江院に安置

エラスムス像の謎に迫る

【佐野】上羽田町の龍江院に安置されていた国重要文化財「木造エラスムス立像」の謎に迫る書籍「エラスムス像の謎」（玉川大学出版部）が今月、出版された。徳川家康に仕えたウィリアム・アダムス（三浦按針）の研究で知られる元玉川大教授の森良和さん（74）が編著者となり、市内で立像の研究や啓発活動を行うエラスムス像研究会代表の道山秀樹さん（73）も執筆者の一人に名を連ねる。（由中佑花）

森さんは10年以上、按針や、按針が日本来航時に乗船していたリーフデ号について研究し、それらに関する

「エラスムス像の謎」を出版した森さん（右）と道山さん



る単著も世に出してきた。近年は特に多くの謎が残る、エラスムス像の研究に力を入れている。3年前、龍江院を訪れ道山さんと会った際、立像が東京国立博物館に寄託されて100年の節目が近いこ

研究者・森元教授ら出版

地元の道山さんも参加

【ズーム】エラスムス像 1600年4月、現在の太分県に來航したオランダ商船「リーフデ号」の船尾に取り付けられていた、オランダの思想家エラスムスの木像。龍江院を開基した牧野成里が、同船の航海士だった三浦按針から砲術を学んだ縁で像を託されたなどの説があるが、安置された経緯はいまだ説明されていない。1950年に国宝から国重要文化財に指定替えとなった。

とから「何か催しをしたい」との話を聞いたという。今年2月に吉澤記念美術館で森さんが講演したことなどもあり、節目の年に本を出版しようと企画した。本は全8章で232ページ。1〜3章は森さんが手がけた。立像発見の経緯や「貴秋様」と呼ばれていた理由など、近年明らかになった新見聞も交えて仮説を展開している。4〜7章は道山さんが担当し、同院に立像を寄進した幕府旗本の牧野成里について解説。これまでの自身

の活動なども紹介している。20日に駒沢大深沢キャンパスで出版記念講演会を開催する。

森さんは「多くの人の協力があつて完成した。節目の年に出版できてとてもうれし

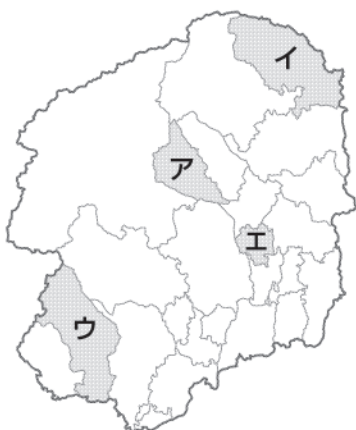
い」と話した。2640円。書店やインターネットなどで購入できる。講演会は無料。

設 問

【1】エラスムス像の特ちょう（他の日本の仏像とちがう部分など）は何ですか。次の中から、そうだと思うものを二つ選びましょう。

- ①木でできている
- ②外国の船についていた
- ③蔵の中から発見された
- ④外国の人の名前がついている

【2】エラスムス像が伝えられてきた龍江院がある佐野市は、次の地図のア～エの市町のうち、どれでしょうか。正しいものを一つ選びましょう。



【3】エラスムス像がオランダの船についていたことから、どんなことが分かりますか。次の中から、そうだと思うものを一つ選びましょう。

- ①昔の日本には船がなかった
- ②昔から日本と外国の人が出会っていた
- ③日本人だけが船に乗っていた
- ④外国の人は日本に來なかった

【4】エラスムス像が国の重要文化財として大切にされている理由は何でしょう。次の中から、そうだと思うものを一つ選びましょう。

- ①とても大きく、形がめずらしい像だから
- ②昔のお寺に長い間、置かれてきた像だから
- ③昔の日本と外国とのつながりを伝える像だから
- ④有名な外国人の名前がついている像だから

出題・監修は佐野市学校教育研究会社会科部会・藍原正宏佐野市犬伏小教諭



293

小学校高学年向け
年 組